

チモシーの収量を維持 するための管理～1番草 収穫後の衰退を防ぐ～

チモシーは寒さに強く、栄養価の高い牧草ですが、経年変化にたがって衰退しやすいという弱点があります。今回はチモシーの収量を継続的に維持するため、1番草収穫後の衰退を防ぐ管理について説明します。

1番草収穫後、チモシーはどのように再生するか

チモシーは、1番草収穫後に刈り取られた茎が枯死しますが、株は生きていますので地ぎわから新たな茎（分げつ）が発生します。この分げつは、2番草として収穫されても枯死せず、再生して翌年の1番草となります。

このようにチモシーは、分げつの発生により株が維持されるので、分げつをしっかりと確保するための管理が重要となります。

チモシーの維持管理

- ① 刈取り高さ（刈高）を高くする

チモシーの1番草の刈高は、その後発生する分げつ本数に影響します。

弟子屈町で刈高9cm（高刈）と刈高5cm（低刈）の比較を行った結果、高刈を行ったチモシーの分げつ本数が多くなりました（図1）。さらに低刈では翌年にチモシーが衰退し雑草が増えたのに対し、高刈では植生が維持されました（図2）。

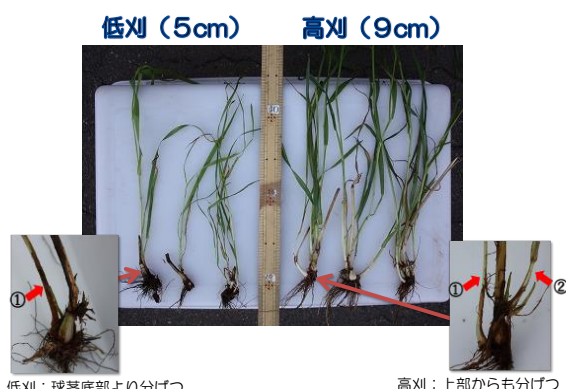


図1 チモシー1番草の刈高と分げつの様子

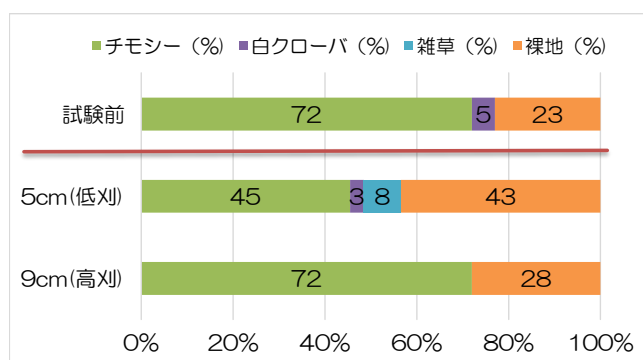


図2 1番草の刈高と翌年の植生割合

高刈を実施するため、モーターソーを調節してみたいかがでしょうか。

チモシーの維持管理

- ② 1番草収穫後の追肥を確実にやる

チモシーの1番草収穫後の追肥も、その後発生する分げつ本数に影響します。

追肥を行わない場合より、追肥を行うほうが分げつ本数が多くなります（図3）。

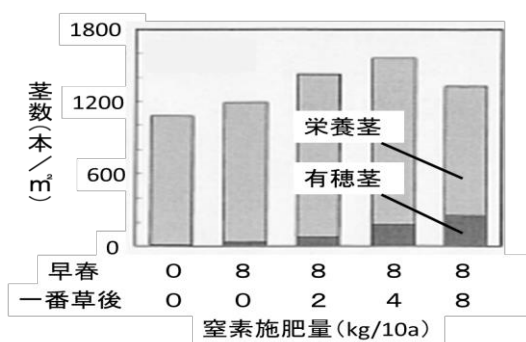


図3 チモシー1番草刈取り後の窒素施肥量と2番草の茎数（松中,1987）

追肥を行わないと2番草だけでなく翌年の1番草の分げつ本数も少なくなってしまうので、追肥は確実に実施しましょう。

また、2番草の収量が最も多くなる追肥タイミングは刈取り後7～10日後くらいです。良い草地への追肥は、このタイミングを狙って実施してみたいかがでしょうか。